

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

学校名	太良町立大浦中学校			
1 前年度 評価結果の概要	<p>・「授業の時の先生の説明がわかる」と回答した生徒96.9%であったが、授業については改善の余地がある。生徒の学習に取り組む姿勢をよりよくするために、学力向上コーディネーターや研究主任が中心となって工夫改善していく。</p> <p>・学校評価アンケートの結果をみると、生徒は充実した学校生活を送っている。職員が生徒一人一人のことを考えて教育活動に取り組んでいることがよくわかる。諸問題に対して学年・学校でいち早く共通理解を図り、組織的に取り組んでいる結果、明るく、落ち着いた学校づくりにつながっている。しかし、自己肯定感や自己有用感が低い。行事や生徒会活動を通して、自己肯定感や自己有用感を育む手立てをとらなければならない。</p> <p>・コロナ禍以降、地域や家庭と一体となった教育実践は難しいものがあつた。「郷土愛」を育むためには、PTAと一緒にボランティア活動を行うなど、新しいことを実践しなければならない。</p>			
2 学校教育目標	<p>郷土大浦を愛し 強く 賢く 美しく生きる生徒の育成 ～大浦中学校が大好きで、故郷大浦に誇りを持つ生徒の育成～</p>			
3 本年度の重点目標	<p>強 く・・・粘り強さの育成と挑戦できる機会づくり 賢 く・・・主体的な学びを促す授業づくりと気づき考え実行する力の育成 美しく・・・立ち止まっの挨拶と無言掃除の徹底 基盤となる取組・・・自己肯定感、自己有用感を高める仕組みづくり</p>			
4 重点取組内容・成果指標				
(1)共通評価項目				
	重点取組		具体的取組	主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○授業が分かると答える生徒の割合90%を上回る。	<ul style="list-style-type: none"> 立腰、学習姿勢、聞き方指導を徹底する。 西部型授業の「話し合い活動」の実践する。 OPPAの活用による評価の充実を図る。 「フォーサイト」によるPDSサイクルを回す力を育成する。 タブレットの活用等による家庭と連携した家庭学習の指導を行う。 	研究主任 (学力向上コーディネーター) 授業づくり部長
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○友達や級友に対して思いやりのある言葉遣いや言葉かけを行っている生徒が90%を上回る。 ○道徳の授業や人権学習集会などで学習したことは自分の心の成長に役立っていると考える生徒の割合が90%を上回る。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人が、安心して学校生活が送れるような支援体制づくりを全職員で行う。 生徒の実態に応じた道徳の授業を、全職員で計画的に行う。 QU検査の実施と分析により指導の具体化を図る。 担当職員を中心に、人権学習集会を計画的に行う。 	道徳教育推進 教員 教育相談主任 特別活動主任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○職員がいじめ問題への対応や取組に対する、生徒評価、保護者評価で、80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、生活アンケートを実施し、生徒指導主事を中心に全職員で生活面での問題の早期発見・早期対応につなげる。 生徒会と連携し、人権集会の開催や人権標語の作成などを通して、いじめをなくすための取組を行う。 	生徒指導主事 生徒会担当
●健康・体づくり	●生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 能力ではなく、やる気の有無を大切に指導を行う。 あらゆる場面で生徒の「出番」をつくり「役割」を与え、結果だけでなく過程で行った努力を「承認」「賞賛」する。 構成的グループエンカウンター等を利用して自己肯定感や有用感を高める。 自己肯定感を育む体験活動の実施と評価を行う。 	特別活動主任 進路指導主事
	●「望ましい生活習慣の形成」	○規則正しい生活ができている(毎日同じくらいの時刻に起き、同じくらいの時間に寝ている)と回答する生徒80%以上。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意識・関心を高めるために、保健だよりの発行や検診内容に関する資料の掲示を行う。 健康診断の事後指導を丁寧に行い、その後も健康相談を継続的に行う。 生徒会の保健体育委員会を中心に感染症予防・健康維持についての定期的な働きかけや調査を行い、意識や行動の変化を確認する。 	養護教諭 食育担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	<ul style="list-style-type: none"> 毎週水曜日を定時退勤日、部活動休養日とし、時間外に行事等を入れない。 業務内容を精選する。また、業務を分担し、一人に過重負担がないようにする。 	管理職
●特別支援教育の充実	○生徒一人一人の特性に応じた支援	○生徒一人一人の特性に応じた支援を実践していると回答した職員95%以上。	<ul style="list-style-type: none"> 合理的配慮のための研修会の実施及び通級指導教室の効果的な運用を行う。 より良い支援を行うために、成功や失敗した実践を職員で共有する。 	特別支援教育 コーディネーター
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				
	重点取組		具体的取組	主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		
○郷土愛	○地域とともにある学校づくり	○「地域に誇りを持っている」と答える生徒の割合が80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動に積極的に参加させる。 保護者が行事に参加しやすい日程を設定したり、内容を工夫する。 地域支援コーディネーターを中心に、地域の教育資源や人材をいかした体験活動や講演会を実施する。 サービスマーケティングを行う。 HPを使って積極的に情報発信を行う。 	管理職 (ICT支援員)
5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 			

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育